

ぬまづの宝  
めぐり  
第75回

奥駿河湾の水軍城

# 長浜城跡



駿河湾の最奥部、内浦長浜の海に面した小高い岬の頂上に「長浜城」の城跡があります。

北東の海には淡島が浮かび、西の海を長井崎に守られ、風が遮られることで穏やかさを保つことから、長浜城の周辺は戦国時代から船の停泊場所になっていたと考えられています。現在でも、頂上から見下ろす湾内には何艘ものヨットが係留されている様子が見て取れます。

1579年、伊豆国を治めていた後北条氏は、北方から勢力を伸ばしていた武田氏に対抗するため、重要拠点である長浜城に北条水軍の主力を集めました。このなかには全長25m前後と推定される当時の最先端軍船である「安宅船」も含まれていたとされ、両軍はその翌年に千本浜沖で大規模な海戦を繰り広げました。

国指定史跡である長浜城跡は、平成27年に史跡として保存整備が完了し、建物跡や土塁(防御用の土壁)など当時の面影を垣間見ることができます。

やや急な階段を登りきった先にある見晴らしのよい頂上では「戦国時代にも富士山や愛鷹山、狩野川河口あたりがよく見えたはず」と案内されています。駿河湾越しに富士山を臨むという沼津ならではの風景は、歴史好きの人を楽しませるだけでなく、その美しさで訪れた人に感動を運んでくれることでしょう。

◎文化振興課(文化財センター)

TEL 055・9335・5010

